

衣台NEWS

意見発表作文 優良賞 受賞！
2021年10月4日(月)

意見発表作文 優良賞を受賞しました。

1年生 ヌルド アイボリーさん

研究主題:明るく、楽しく、生き生きと学校生活を送るために
高等学校・高等部の部 優良作品

主催:西三北地域協働生徒指導推進委員会

中学生から高校生へ

1年 ヌルド アイボリー

私は中学生のころフィリピンからやってきました。しかし、中学校は週に2回以上欠席をしていました。日本語が下手なので、コミュニケーションをとるのが難しかったです。勉強はできないし、宿題はいつも難しくて出せないし、学校に行かない日がありました。なぜなら、私は彼らと一緒にいるべきではないと感じていたからです。私はいつも孤独を感じていました。日本語が苦手なことで自分を責めていました。次の日の学校が嫌で毎晩泣いていたのを覚えています。でも、今この高校では、とても幸せを感じています。なぜなら私と同じ境遇の人たちにたくさん出会ったからです。日本語が話せないことの苦勞を理解してくれる多くの人に出会いました。他の外国人と友達になったことで、日本語がうまく話せなくても悲しむ必要はない、努力することが大切なんだと気付くことができました。また、日本人のクラスメイトと初めて仲良くなりました。私のことを知ろうとしてくれて、友達になろうとしてくれて、それが本当に嬉しかったです。

高校生になってから、中学生のころには学べなかったことを色々学びました。数学の松岡先生は、担任の和崎先生の次に一番好きな先生です。松岡先生は時々、子供のように、ピエロのように振る舞い、よくしゃべり大きな声を出します。彼は私たちにとても忍耐強く接してくれます。外国人を教えるのは簡単なことではありませんが、だからこそ私はこの衣台高校の先生方に感謝しています。友達と一緒に勉強することや、先生たちと一緒に勉強することは本当に楽しいので、いつも学校に行くのを楽しみにしています。

私はバドミントン部に入りたかったのですが、衣台高校にはバドミントン部がありませんのでバレーボール部に入りました。私はまだバレーボールが得意ではありませんが、日に日に慣れてきました。正直なところ、バレーボール部を辞めようとしたこともあります。自分がやりたい部活ではないと感じ、ストレスを感じていましたが、素晴らしい友達や顧問の先生に出会えたので、続けることにしました。バレーボールの技術や色々なことを教えてくれる先生や先輩に感謝しています。

今これを読んでいる人や、未来の自分へのアドバイスは、決して希望を失わないことです。自分が望んでいた場所や環境にいないとき、新しいことに挑戦することや、自分の居心地の良い場所から一度出ることはとても大切です。誰とでも友達になり、たとえ相手の話す言葉に精通していなくても自分から話しかけてみましょう。練習しなければいけないときもあります。成功するまで何度も試してみてください。そして、あなたのそばを離れない友達を大切にしましょう。なんでも助けてくれる友人がいることは、感謝すべきことだと思います。私たちはまだ若いので、自分が幸せになれることをしましょう!失敗してもいい、教訓を得ればいい。私たちの青春を楽しみましょう!

「TAKE CHANCES WHEN YOU ARE YOUNG SO THAT YOU CAN TELL STORIES WHEN YOU ARE OLDER」